

- ・表紙「天王原ワインストーリー」…………… p.1
- ・安曇野を知る1枚「温堰」…………… p.1
- ・公民館講座  
(豊科・穂高・三郷・堀金・明科)…………… p.2, 3
- ・グループ紹介「早春賦愛唱会」…………… p.2
- ・地区公民館だより「小田多井地区」…… p.4
- ・私は一生懸命「西澤米子さん」…………… p.4



## 動画を制作

てんのうばら  
天王原ワインストーリー

どうが栽培されている。

明科公民館では、昨年秋から栽培・収穫・醸造に至る過程を収録し、YouTubeで配信する作業を行っている。コロナ禍にあってままならない公民館事業に光明を見出す新たな取り組みのひとつである。今後は、オンライン講座、スマホ・タブレットなどの操作講習会を行い、電波による幅広いつながりと集いを目指していきたい。この動画は「天王原ワインストーリー」という表題で5月上旬に配信を予定している。

明科上押野地区の天王原丘陵地には、一面のぶどう畑が広がる。ここから見る安曇野の田園風景と北アルプスの山並みは美しい。以前は遊休荒廃農地であったところだ。2019年に65アールの農地が作られ、現在は12ヘクタールを超える畑にメルロー、シャルドネなどのワイン用ぶどうが栽培されている。

## 安曇野を知る1枚 ぬるせぎ 温堰

温堰は三郷地域最長の堰で、総延長約11km、灌漑面積約1,000畝をもつ安曇野における最も巨大な縦堰である。現在は松本市波田の梓川頭首工から取水し、三郷地域(野沢、下長尾、二木、楡)・堀金地域等の水田の灌漑を担っている。中世以来、水田開発と集落形成を意図して堰筋が順次延長され現在に至っている。



## 地区公民館だより 小田多井地区公民館 (堀金)

堀金地域の南東部に位置する小田多井地区(166戸、10班)は、公民館長以下三役と女性部・体育部・社会部・文化部部員45名で活動しています。

例年引き継がれてきた行事や活動が、今年度もコロナ禍で中止や縮小となる中で、何かできることはないかと考え、マレットゴルフ大会・納涼祭・敬老行事・文化祭・人権学習会などを計画・実施してきました。

納涼祭については、実施直前にコロナの感染警戒レベル引き上げのため、やむを得ず中止となりました。敬老会については、訪問型の敬老祝賀行事とし、例年参加できない高齢者からは好評をいただきました。また、文化祭についても60年以上続いている喫茶部や「みんなで走ろう会」は行わず、展示のみとし、期間短縮をして実施しました。

多くの人が集まり絆を深める活動が難しい中、公民館行事と共に、地区公民館(小田多井交流センター)を活用したサークル(小田多井コーラス・書道会・バランスボール・小田多井詩吟会など)活動は活発に行われています。

今年は、感染拡大防止のために、それぞれの活動を発信しにくい現状を改善するため、行事や団体の活動の様子を写真・ビデオに撮り、公民館の壁面や文化祭にて掲示するとともに、スライドショーに編集し、文化祭参観者に見ていただきました。

今後も、ウィズコロナの生活が続く見通しですが、多くの区民が集まり、楽しく絆を深める公民館活動ができるよう考え、行動していきます。

【小田多井地区公民館長 岩原 孝直】



小田多井文化祭のようす

## 私は一生懸命 西澤 米子さん (豊科)

誰よりも美しい姿勢、美しい所作で踊りを披露される西澤米子さんは御年94歳。

今から60数年前、お隣の方に誘われて西川流日本舞踊を始めた。西澤さんは踊りが好きだったこともあり、振り付けを覚えるのが早く、師範にも褒められて夢中で稽古をした。「主人の理解と協力があってこそ長く続けてこられた」と、今は亡き夫へ感謝しつつ話してくださいました。

この頃、師範の西川先生は一月に3日間東京



から来ては稽古をつけてくれていたが、お弟子さんが多く、一人につき30分という限られた時間であった。所作の難しい古典舞踊を覚えるのに苦労したそうだ。全盛期には30人もいた踊りの仲間は、現在は4人になってしまい「寂しいかぎり」とのこと。

自宅に大きな鏡の付いた踊り専用の部屋がある。時間がある限り練習をして、美しい所作が出来るように今でも努力を怠らない。

新田公民館で週1回仲間と練習しており、豊科公民館の文化祭を始め、年3回ある発表の機会に踊りを披露する。

西澤さんは「健康にも恵まれ、周りの人にも恵まれ、好きなことがこの歳までできることがとても幸せです」と穏やかな笑顔であった。

## 編集後記

◆共存に向けてようやく道筋が見えた感染症禍の一方、終わりの見えない紛争が世の中を揺るがし続けている。新しい年がスタートして早や3ヶ月が穏やかに過ぎていくが、平和を祈りつつ、このまま今の暮らしを続けたいものだ。(K・Y)

◆未知の感染症が発生して3年が経過したが、未だ不確かな情報が交錯し、人心は穏やかではない。遠い日の話に聞く戦争が、遠い国で始まり、近くの問題となって庶民の日常を脅かす。安寧はいつ訪れるのか。(T・Y)



「目指せ！けん玉名人」  
～老いも若きもどなたでも～

三郷公民館では、日本けん玉協会安曇野支部長の高山万寿さんを講師に迎え、2年目となるけん玉教室を開催した。

この教室は年に7回開催する予定で行っており、昨年5月から始まった教室には、幼児から高齢者まで16人が参加。個人個人のスキルが違うため、個別でも指導を受けながら、それぞれに目指す級や技の目標を掲げて参加してきた。



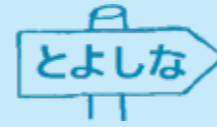
今回1月29日の第6回では、講師から同じ技を3回続けて成功したら次の技に向かう課題が出された。この日熱心に練習していた大月

【公民館講座】

敬太さん(小5)、郁澄さん(小2)兄弟は、保育園でけん玉をもらったのをきっかけに始め、それぞれ4級、5級が目標とのこと。敬太さんは「新しい技が出来るとうれしいし、けん玉の楽しさに触れたことが良かった」とし、一緒に来ていたお母さんは「練習中は集中してやっているし、根気も付いているのかな?と思います」と話した。



最終回の閉会式では、それぞれに級段認定があり、認定証の交付が予定されている。



「豊科地域コーラスグループ  
交流発表会」

令和4年度豊科地域コーラスグループ交流発表会が12月10日、豊科公民館ホールで3年ぶりに開催された。

今までは豊科地域のコーラスグループだけだったが、今年から穂高からの参加もあり、7団体、約90人が出演して美しいハーモニーを響かせた。



以前は3曲ほど全員合唱するのが恒例であったが、今回は安曇

野市歌「水と緑と光の郷」をプログラムの最初に歌うこととした。

参加者の中からは次のような感想が寄せられた。「みんな年を重ね腰が曲がったり、立って歌えなくなったりしているが、外見はどうあれ、歌が好きという気持ちがあって続けることができる」「コーラスは元気で人生を送れる励みになる」「この発表会があるという目標があるので、頑張ることができる」

参加者は、来年もみんなでこのステージで歌いましょうと力強く誓い合っていた。



「堀金公民館冬期スポーツ大会」  
～ポッチャで交流～

堀金公民館は2月12日、冬期スポーツ大会を「ポッチャの交流会」として堀金小学校体育館で開催し、70人余りが参加した。堀金総合体育館の改修工事と新型コロナウイルス感染症防止対策もあり、従来の地区公民館対抗競技として行っていた、ワンバウンドふらばーのバレー・シャッフルボード・囲碁ボール・ハンドヒットボールの代わりに、東京パラリンピックで日本選手の活躍が話題になった「ポッチャ」を取り入れ、スポーツ推進委員の指導で実施した。



倉田地区チームで参加した丸山晶子さんは「久しぶりの大会で、初めて触れるポッチャを体験することが出来て楽しかった」と活動する喜びを語り、山田公民館長は「内容は変わったけれど3年ぶりの開催で、交流の復活がみられ行事の意義が伺える」と感慨深げに話した。

公民館が普段の暮らしの中だけでは得難い機会を得られる交流や絆を深める居場所となれば幸いである。



「背骨コンディショニング教室」

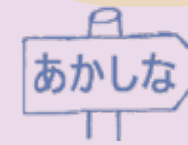
穂高公民館は1月13日に穂高会館講堂で『背骨コンディショニング教室』(全5回)の初回を開催した。講師は背骨コンディショニング協会のトレーナー加藤百合子さんと向後美奈子さん。受講者は20人。

初めに、背骨コンディショニングの簡単な説明があり、それから運動に入った。運動の最初は各自の身体のゆがみチェック。続いて、ゆがみを直す運動。首の運動では、マットにうつぶせに寝て、あごの下にこぶしを置いて首を左右に振って耳を肩につける。腰の運動は、あお向けに寝て仙骨枕を腰の下に置き



て脚を開いて内と外に動かす。両足裏を合わせて脚を左右に倒す。運動の最後は筋トレ。ゴムベルトを使って大殿筋を鍛える運動やお向けに寝て膝を曲げて腰を上げる運動。

こうして受講者は2人の講師の指示とサポートでたくさんの運動に大変熱心に取り組んだ。「初めは首が痛かったが、後は身体が軽くなった」「肩こりがなくなりスッキリした」「気持ちよかった」「自分の身体の左右の動きの違いに気づいた」などの声が聞かれた。



新春コンサート  
「箏と尺八のしらべ」

『春の海』から始まった新年恒例の箏と尺八のコンサートが、46名の参加者を集めて1月27日、公民館講堂で開催された。箏の有賀雅栄さんと小澤雅美穂さん、そして尺八の原靖堂さんにより6曲が演奏され、曲目に応じて三絃や十七絃の箏が使われた。



三絃、いわゆる三味線はたった三本の弦だが、広範囲な音程を出

すことができるので、『ことうた』では箏に変わって使われた。十七絃は合奏曲の低音部を受け持つ箏として、1921(大正10)年に宮城道雄さんが考案した楽器だ。原さんは「宮城さんは『春の海』を作曲した人だが、今は学校でも教えない」と話した。

原さんからは尺八独奏の『調子』・『恋慕流し』・『鉢返し』を演奏するにあたり、尺八を奏しながら諸国を修行して巡る普化宗(よひしん)についての話もあった。曲ごとに背景や楽器の説明などがあり、学びのあるコンサートであった。

グループ紹介 早春賦愛唱会(穂高)

「『早春賦』は安曇野が里」と、全国的に知れ渡った大きな理由は、NHK名曲アルバムにありました。昭和57年、早春の安曇野の風景とともに“早春賦のメロディー”がテレビ画面から流れ、多くの人々の心をとらえました。

～♪緑の丘の赤い屋根 とんがり帽子の時計台…～これは昭和22年にスタートしたNHK連続ラジオドラマ『鐘の鳴る丘』の主題歌です。これも安曇野にある『鐘の鳴る丘』がモデルとなっています。まもなくして、松竹映画のロケーションが、ここ安曇野でたくさん行われ、大きな話題をよびました。

早春賦愛唱会は、『早春賦』と『鐘の鳴る丘』をテーマにした活動を長年にわたり行ってきましたが、中心となる活動は『早春賦音楽祭』です。

早春賦をテーマにした活動をするなかで、本当にいろいろな方々にお世話になり見守っていただきながら、歴史を紡いでこられたことに改めて気づく今日この頃です。感謝の気持ちを込めて、今年も音楽祭をはじめとする活動を行っていききたいと思います。【早春賦愛唱会主宰 西山紀子】

